（第三種郵便物認可）

設備導入で残業時間削減

スタッフと客の動線工夫

働き方改革では、生産性向上が重要なテーマの一つ。新たな設備を導入し、人手に頼っていた作業を効率化したり、店舗内でスタッフが働きやすい動線に変更するなど、各社とも知恵を絞っている。

生産性向上

回顧2019

働き方改革

＝下＝

業務負担軽減、人に優しく

ロボットを増設し、業務負担を軽減した前田鉄工所

効率のよい動線に改装したタンドルの店内

■手作業を自動化

自動車向けなどの部品加工を手掛ける**前田鉄工所**（中川区）は、加工時に生じる突起（バリ）を取るロボットを新たに導入し、従業員の業務負担を軽減している。

働き方改革に乗り出したのは、前田基樹社長が数年前に後継者として入社したのがきっかけだ。前職の大手コンサルティング会社で人事関連の業務を担当し、働き方改革への意識が高かった。当時、前田鉄工所では、従業員の入れ替わりが多いことも背中を押した。

バリ取りロボットはもともと1台だったが、3台に増設した。バリ取りは人手に頼っていたが、受注する部品の変化により、バリ取りが必要な部品が月間数万個に拡大した。前田社長は「手作業ではかなりの集中力が必要となり、負担も大きかった」と振り返る。

設備増設に伴う費用はかさんだが、2人分の作業を減らせるインパクトがあった。前田社長は「人に優しい会社を目指している。業務負担の重い作業を人間から引き離すことが大事だ」と自動化の重要性を語る。

工業用ミシンや航空機、工作機械などの精密部品加工を手掛ける**木下精密工業**（北区）。3年前から24時間稼働のマシニングセンターを順次導入し、導入前に比べ残業時間を3分の2に削減した。

このほか、放電加工機、レーザー加工機を更新するなど省力化投資を推進している。

同社の2019年5月期の設備投資額は約1億円で、6年前に比べて3倍に膨らんだ。ただ、積極投資によって生産性が向上し、19年1月からは全社一斉の年間所定休日を4日とし、従来に比べ2日増やすことができた。

3年ほど前から新卒採用が厳しくなっており、働きやすい環境をアピールし、採用増にもつなげたい考えだ。

■店内改装し改善

美容室の**タンドル**（中区）は、長時間労働が多い美容師の時短に取り組む中、生産性向上につなげるため、設備投資や新たな人材採用に取り組んでいる。

美容師の仕事はヘアケアだけではない。客からの予約電話の応対や受け付け、店内の整理整頓や清掃など専念すべき仕事以外にも忙殺される。電話が入れば客へのサービスを中断し、待たせることもある。パーマやヘアカラーからシャンプーへの座席移動も美容師と客にとって負担になる。

こうした課題を解決するため、店内を改装した。椅子やシャンプー台の配置を見直したほか、2階にはヘッドスパ専用ルームを設けるなど、客と美容師の動線を極力減らした。また、美容師のほかに受付業務専門のスタッフ、整理整頓・清掃専門のパート従業員を新たに雇用し、美容師がサービスに専念できる体制を整えた。

これらの取り組みで連日深夜にまで及ぶことが多かった残業を1カ月で平均3～4時間にまで大幅削減し、生産性向上にもつなげた。長田美奈社長は「生産性を向上することで、拘束時間が長いイメージが強い美容業界を変えたい」と意気込む。

マネの作品など一堂に

県美術館3日から コートールド美術館展

愛知県美術館は1月3日から、名古屋市東区の同館で「コートールド美術館展　魅惑の印象派」を開催する。3月15日まで。英国のコートールド美術館に収蔵されるマネ、ルノワール、セザンヌなどの作品を展示する。19年12月まで東京で開催されていた巡回展では35万人を動員した。

関係者らが出席し、テープカットが行われた

このほど報道関係者向けに内覧会を開いた。コートールド美術館のエルンスト・フェーヘリン館長が展示の目玉でもあるエドゥアール・マネの「フォリー＝ベルジェールのバー」を解説。「下絵のX線解析により、マネは意図的に実際よりゆがんだ構図で描いたことが分かっている。当時の人々は同時代の資質を問われている」とした。

そのほか、県美術館の「作品」

名古屋

情報は名古屋デスクへ

TEL052(561)5212
FAX052(561)5207

WEBでのお申し込み

中部経済 検索

名古屋 部屋探し 部屋セレブ

S-POINT
http://www.spoint.jp